



経営者に成長して欲しいと期待しています。

みんなで頑張る

社長交代して3年になりますが、私が掲げた短期目標の9割はチームで達成出来ています。達成出来ている理由は1年の目標を3ヶ月の目標に4等分したこと、分割することで目標に対する進捗管理がしやすくなるのです。又曖昧な目標設定ではなく『石鹸の泡体験人数』、『酵素年間購入』、『新製品の体験人数』、『メイクイベント集客』などのようにどれだけ頑張ったのかが目に見えるような目標設定に変えました。



息子への期待

好調な時に引き継ぐよりもピンチの時に引き継いで、いろんな経験を積むことで田中清という人物の本当の魅力や自信が身につく絶好の機会と捉え、事業承継を決めました。継承というのは信じて任すことだと考えておりますので、躊躇は全くありませんでした。

メンバーのモチベーションを上げる企画をしたり話をよく聞いたり、信頼関係を築いている姿やSNSを上手に使う組織をリードしている息子の姿を見て、承継のタイミングは最適であったと実感しています。今後は相手の成長の為に言いつらいことも伝えられる育成力や、財務関係の知識を身につけ私を超える

思考の壁を破る

持するためにグループLINEを活用しています。

また今までは拠点ごとにミーティングを行っていましたが、今年度から全体で集まる『全体ミーティング』を開催しています。拠点ごとの利点としてはメンバー一人一人との深いコミュニケーションは取れるのですが、決まったメンバーのミーティングでは情性・決りつけ・エネルギー不足になってしまう可能性があります。

アルソアたなかのメンバー全体で集まることにより、色々な人と情報交換することで自身の思考の壁を破ることが出来たり、調子がいいいメンバーが引き上げられ、相乗効果と一体感の形成と言う大きな効果を感じています。

メンバーからの不満爆発

100名規模のメイクイベントを開催した時のことです。当日までの企画運営を私が中心に行っていたのですが、イベントをどうしても成功させたいという責任感からいろいろな情報を自分が抱え込み過ぎ、メンバーとの情報共有が全く出来なくなり、イベントを間近にした時にメンバーの不満が爆発しました。このままではもう無理」と言う所まで追い込まれたのですが、この時はメンバーに直接謝罪し、感じていることを一人一人丁寧に聞かせてもらいました。その時に言われたことで今でも忘れることが出来ないのが『もっと頼ってください。私たちが信頼してください』です。

それまでは一人でやるのが当たり前で、人に頼ることで相手に負担をかけてしまうと感じて気が引けておりました。しかし、それは相手を信頼せず、相手の器を自分が勝手に決めていたことに気づかされました。この出来事の前は相手との距離を取っていた自分がいましたが、これ以降は良い意味で遠慮が減り、相手との距離がぐっと近づきました。

相手の幸せを真剣に願う

仕事を通して幸せにしたいのはまずは身近な親子でもそして妻の花菜美です。当たり前ですが、親がいなければ今の私は存在しません。親は無条件に信頼し尊敬し、恩を返していく存在だと思っております。自分の存在と同じくらい親を大切に、幸せにしたいと思えます。またアルソアたなかの親である平下さんも本当の親と同じくらい大切にすべき育ての親と呼べる存在です。

子どもとは私の3人の子供たちとアルソアたなかグループを選んでいただいたメンバーの皆様、長としてメンバー全員をきれいで健康で幸せにするのが責任であると考えています。まだまだ社長としての器は大きいとは言えないのですが、相手の幸せや成長を思い、それが促進できるような最善の行動をとることで自然と器は大きくなると考えています。

本音で接する

『清社長のおかげで今の組織があります。感謝しています！』と言ってもらえた時があるのですが、この時は本当に嬉しかったですね。私心がけているのが『本音で接すること』。相手のお話をお聞きし、感じたことを出来るだけそのまま伝えるようにしています。あまりにもストレート過ぎてその瞬間には表情が曇る方もいるのですが、相手がきちんと受け取ってもらえるまで何回も丁寧に話そうとしています。成果が出ずに苦しい時も、目標を達成し嬉しい時もそうして本音で関わってきたことが強い絆になっていると感じられた時は大きな充実感を感じます。

相手の可能性を信じ、その人自身も気づいていない力を発揮し、成果に繋がられるような関わりができる存在でありたいと思っております。その為に相手以上に相手のことを想ってあげられる『信じる力』とそこに向けて進んでもらえるように段取り力(計画力)をこれから更につけていきたいと考えています。

葛藤を受容れる

先代には生みの苦しみがあり、後継は『守り、発展』の苦しみがあります。『自分には向いていないのではないかと』、『自分が直接契約した人ではないので関係が壊れてしまうのではないかと?』リーダーシップを発揮できないのではいか?』など、言い訳はたくさん出てきますが、様々な葛藤と向き合い、自分ごととして受け入れ、自分らしくリーダーシップをとっていくことが私のやるべきことだと感じています。

自分の力の無さを感じ、経験が少ない自分は社長として適任者じゃないのではないかと悩んだときもありました。しかし後継者として生まれてきて社長になったからには『向いていないのではなく、どうしたら良くなるかの1点を考え抜く自分でありたい』と思います。子どもには事業承継してほしいとは思いますが、まだ小さいので現時点では正直想像が全くできませんね。(笑)